

市立加西病院 新病院基本構想・基本計画骨子（案）

1. 加西病院を取り巻く環境と現状・課題

（1）人口動態・医療需要予測

- 当院が位置する加西市の人口動態について、総人口は減少傾向にあり、高齢化率についても2035年以降、人口の約40%以上が65歳以上の高齢者になると推計され、兵庫県全体と比較しても進んでいる状況にあります。そのため、人口減少と共に、少子高齢化の進行に伴う働き手不足が懸念されます。
- 加西市の医療需要について、外来では既に減少傾向にありますが、入院においては2035年までは増加する予測となっています。
- 疾患別では、高齢者に多いとされる循環器系疾患等の需要が見込まれており、今後、救急医療も含め、慢性疾患や複数傷病を抱えることの多い高齢者医療への対応が更に求められます。

（2）医療提供体制

- 加西市は異なる医療圏の姫路市や加古川市とも隣接しています。そのため、当院では北播磨総合医療センターのみでなく兵庫県立はりま姫路総合医療センターや加古川中央市民病院等の高度急性期機能を担う医療機関と医療圏を超えた広域連携が進んでいます。
- 当院は、加西市及び北播磨医療圏西部における唯一の救急病院であり、加西市で発生した救急搬送の約50%を受け入れています。
- 北播磨医療圏の医療機能別病床数としては、地域医療構想における2025年の必要病床数と各病院の病床機能報告を比較すると、急性期・慢性期病床が過剰で高度急性期・回復期病床が不足している状況であるため、当院においても回復期病床の維持・確保が求められます。
- 働き手不足や医師の働き方改革の開始等を受け、地域の限られた医療資源を有効活用し、将来にわたり持続可能な医療提供体制を確保するために、加西市のみでなく北播磨医療圏や隣接する姫路市や加古川市等の医療機関及び介護福祉施設等との連携をより強固にしていくことが重要なテーマとなります。

（3）経営状況・診療実績

- 外来延べ患者数は、令和2年度、令和3年度に新型コロナウイルス感染症の影響で減少した後、令和4年度には令和元年度実績近くまで回復していましたが、令和5年度には医師の減少等により再度減少しています。外来診療単価については、年々増加傾向にあります。
→令和5年度実績 外来延べ患者数 80,750人、外来診療単価 12,503円
- 病床稼働率について、許可病床数を令和2年4月に266床から199床へ削減したことで、令和2年度、令和3年度は90%を超える稼働率でした。しかし、令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響で83%に減少し、令和5年度には75.2%と更に減少しています。入院診療単価については、地域包括ケア病床では増加傾向ですが、急性期一般病床では減少傾

向にあります。

→令和5年度実績 入院延べ患者数 54,788人、入院診療単価 44,830円

- 救急医療について、令和2年度までは減少傾向でしたが、令和3年度以降は増加傾向に転じ、令和4年度では、令和元年度と同等の件数まで回復しています。令和5年度では、前年度に比べてやや減少しています。

→令和5年度実績 救急車受入件数 1,382件

- 医業収支について、令和2年度、令和3年度は大きく改善していましたが、令和4年度は新型コロナウイルス感染症による入院制限等により入院収益が減少したため、令和3年度と比べ悪化しています。経常収支については、国庫補助金の影響もあり、令和2年度以降黒字化を達成しています。ただし、令和5年度においては、常勤医師の減少や補助金の減少等により、令和4年度より更に経営状況が悪化しています。

→令和5年度実績 経常収支比率 94.8%、医業収支比率 85.2%

- 職員数について、医師数は、近年減少傾向にあり、特に令和4年度から令和5年度にかけて大きく減少しており、医師確保が厳しい状況となっています。常勤職員数に関しては、病床数の削減を見据えた減員となっています。特に、令和2年度から令和3年度にかけて看護師数の減少が大きくなっています。

→令和5年度実績 常勤医師数 33人、常勤看護師数 147人

(4) 建て替えの必要性

- 当院は築後、約50年が経過しています。そのため、建物や設備の老朽化・狭隘化が進んでおり、耐震性にも課題があります。
- 緊急排水槽の設置など、地域の災害拠点としての機能を併せ持つ必要があります。
- 利便性の観点等から、現在の高台からアクセスの良い平地への新築移転を前提とした施設整備を行います。

2. 新病院の基本方針

(1) 基本理念

基本理念	
	ここは 病めるものが 心を安らげ 信じ 喜べる 休息の場である
基本方針	
	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼と思いやり、安心の医療を行います ・地域に広がる医療連携を築きます ・健全経営で活力ある病院を築きます ・安全、良質、最善の医療を行います ・教育、研修で良き医療人を育てます

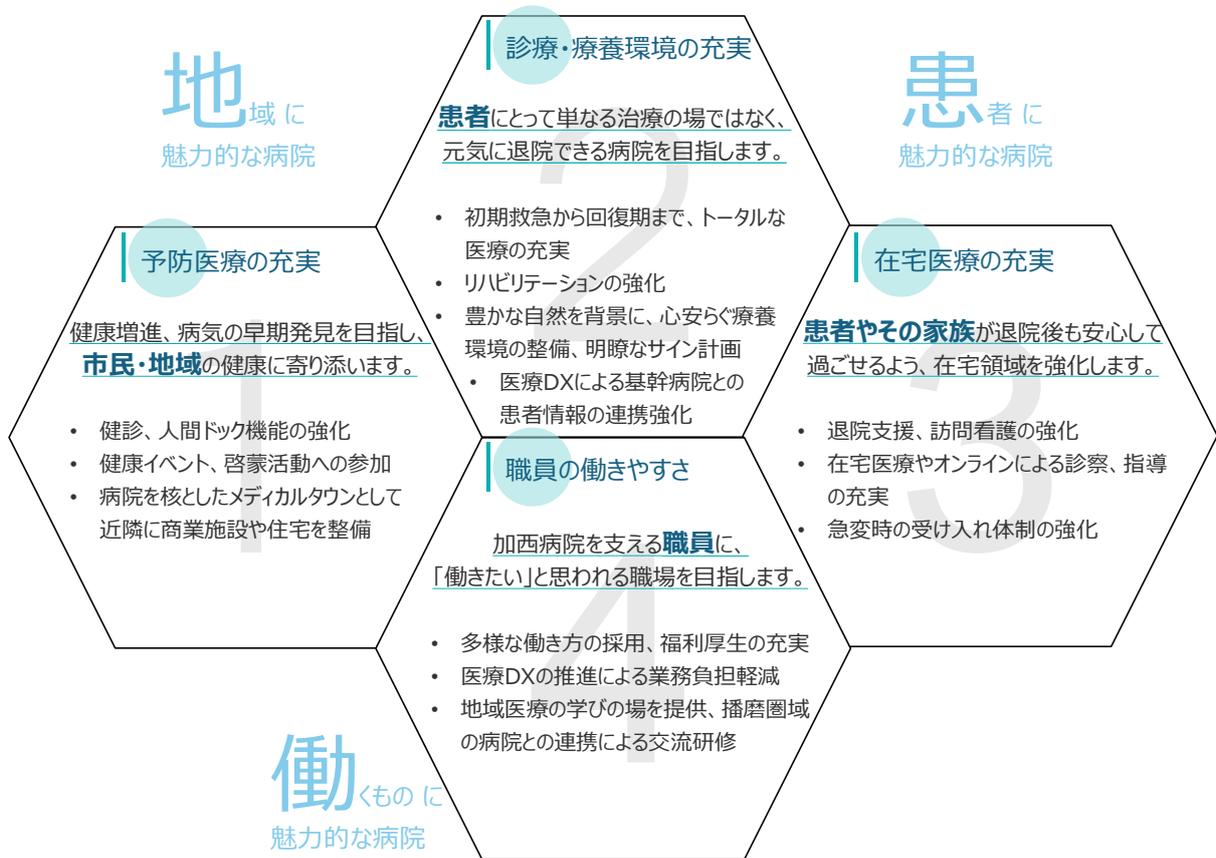
(2) 新病院の目指す姿・コンセプト

- 当院は、地域包括ケアシステムにおいて中心的役割を担います。
- 加西市民から医療保健全般で信頼される地域多機能型病院となります。
- 予防医療機能（健診、人間ドック）や在宅機能（在宅療養の後方支援、訪問看護）について

も、充実させていき、加西市民が加西の地で安心して暮らせる環境の整備を目指します。

- 市とも連携し、病院を核とした「まちづくり」を目指します。
- 地域、患者、働くものにとって魅力的な病院であり続けます。

“いつまでも安心して暮らせる加西” そんな町を支え続ける存在に。



(3) 新病院での役割・機能

ア 病床数

- 新病院での病床数について、健全経営・採算性の観点、医療需要、必要病床機能・規模の観点、運営体制の実現可能性の観点から検討を行い、以下の方針とします。

病床数

一般病床	136床
・急性期病床	56床
・回復期病床	80床

イ 標榜診療科

- 新病院における標榜診療科は、現在標榜する科目の継続を基本方針とします。
- ただし、今後の医師確保状況等に応じ、適切な診療科設定を継続して検討していきます。

標榜診療科

内科	呼吸器内科	消化器内科	循環器内科	外科
整形外科	耳鼻咽喉科	産婦人科	小児科	泌尿器科
眼科	精神科	皮膚科	脳神経内科	放射線科
麻酔科	リハビリテーション科			

- 診療科別の対応方針は、以下の通りです。

標榜科目	入院対応	外来対応
内科(総循環神呼)	○	○
外科	○	○
整形外科	○	○
耳鼻咽喉科	○	○
産婦人科	×(地域での機能分担) ※産科：広域政策医療による分担	○(健診必要) ※産科：広域政策医療による分担
小児科	×(地域での機能分担)	○(最小限の面積で対応)
泌尿器科	×(内科・外科で対応)	○(透視室は他と共有)
眼科	○	○
精神科	×	○(神経内科と併用)
皮膚科	○(褥瘡)	○
放射線科	×	○
麻酔科	×	○
リハビリテーション科	×	○

ウ 医療提供体制

- 基幹病院や周辺診療所との連携を強化し、急性期機能、サブアキュート・ポストアキュート機能を提供します。
- 周辺医療機関との機能分化を図り、急性期病床を一定維持しつつ、不足している回復期病床を整備します。
- 5疾病6事業及び在宅医療への対応は、以下の通りです。

5疾病6事業及び在宅医療	
がん	がん一般標準治療、外来化学療法、外来対応、緩和ケア機能
脳卒中	回復期・維持期医療への対応
心筋梗塞	一部初期救急への対応、回復期・維持期医療への対応
救急医療	初期救急への対応、在宅医療・高齢者の救急受入対応
小児医療	一般外来対応
精神医療・認知症対応	認知症疾患の早期発見
在宅医療支援	在宅療養の後方支援

(4) 医師不足への対応方針

- 市が実施している医師奨学金制度のPR強化や、院内に医師確保専門の部署を立上げ、市を巻き込んだ新しい制度設計や、募集に向けたパンフレット作成等に注力し、医師招へいの実現に繋がるよう努めていきます。
- 医師不足を補う策、また医師の負担軽減策として、「特定行為看護師の育成」、「医師事務作業補助者の確保」、「医療DXの推進」を進めていきます。
- 当院単独での検討事項ではありませんが、医師のみでなくコメディカル等の人材確保に寄与する地域医療連携推進法人の可能性も検討します。
- 地域医療連携推進法人とは別に、指定管理者制度、経営統合等の新しい経営形態の可能性についても、必要に応じて検討していきます。

3. 新病院の整備方針

(1) 施設・建物概要

① 建設予定地

- 用地住所： 兵庫県加西市豊倉町
- 敷地面積： 約 43,000 m²
- 現病院からの距離： 3km(車で5分程度)



② 新病院の建物概要

- 新病院建物規模：新病院建物規模は、1床当たり面積の目標値を90m²とし、延床面積は約12,240m²を想定します。
- 階数：建設可能なスペースや機能連携、病棟の可変性を鑑み、建物階数は3階建て程度を想定します。
- 病棟数：病棟数は、急性期病床 56 床 1 病棟と、回復期病棟 40 床 2 病棟の合計 3 病棟を想定します。
- 駐車場台数： 患者用 約 290 台、職員用 約 240 台 計 約 530 台

(2) 整備手法の検討

- 建設関連業界動向等を注視しつつ、以下の発注方式を中心に基本設計を進めるなかで最適な整備手法を検討していきます。
<従来方式・DB方式・ECI方式>

(3) 整備スケジュール

- 現時点でのスケジュール想定は以下の通りで、令和12（2030）年度の開院を目指します。

R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度	R11 年度	R12 年度
	基本構想・ 基本計画	基本設計・ 実施設計	造成工事	新館工事		移 転	開 院

4. 事業収支シミュレーション

(1) 概算事業費

- 新病院の建設に係る概算の総事業費は、現時点では、約130億円を見込みます。
- 総事業費については、基本設計、実施設計の段階における具体的な検討の中で、精査を進め、可能な限り圧縮することに努めていきますが、昨今の情勢に伴う建設費用の変動により増加する可能性があります。

区分	金額（億円）	備考
土地関連費	8.6	用地買収費、用地測量費、造成工事設計・監理費、造成工事費等
設計監理費	4.7	建築工事基本・実施設計費、工事監理費
建築工事費	99.4	病棟建築工事費、外構整備費等
機器等整備費	15.9	医療機器整備費、情報システム整備費、備品購入費
その他の経費	1.6	基本構想・計画業務委託費、開院支援業務委託費、移設費等
計	130.2	

(2) 事業収支シミュレーション

① 試算条件

- 医業収益

項目	設定値	備考
病床数	136床	—
急性期	56床	R5年度末時点 99床
回復期	80床	R5年度末時点 100床
1日あたり入院患者数	126.4人/日	—
急性期	50.4人/日	R5年度実績 74.4人/日
回復期	76.0人/日	R5年度実績 75.3人/日
稼働率	92.9%	—
急性期	90.0%	1日あたり患者数はR5年度実績よりも少ない設定
回復期	95.0%	1日あたり患者数はR5年度実績と同等
入院診療単価	44,392円	—
急性期	48,000円	R5年度実績 47,914円
回復期	42,000円	R5年度実績 41,782円
1日あたり外来患者数	350人/日	R5年度実績 332人/日
外来診療単価	12,600円	R5年度実績 12,503円

- 医業費用

項目	設定根拠
給与費	ダウンサイジングに伴う計画的な減員反映
材料費	対医業収益比率 16.4%(令和4年度実績)
経費(光熱水費・委託費・清掃)	現状の単価を算出し、延床面積の変動を反映

- その他： 20年目と30年目に大規模改修を想定

② 収支シミュレーション結果

- 開院後10年間の収支シミュレーションでは、医業損益、経常損益ともに赤字が続く予測となっています。
- その要因としては、病床数の削減による医業収益の減少、新病院移転に伴う設備投資による減価償却費の増加等となっています。
- 資金繰りについても、単年度キャッシュフローは開院1年目から不足が続き、累積としては開院9年目に資金不足に陥る予測となっています。
- 資金確保に関しては、開院までに経営改善に取り組み、保有資金の確保に最大限努力します。それと併せて、加西市とも基準外繰入金の可能性について、協議を進めます。

単位：百万円

■ 収益的収支	2030年度	2031年度	2032年度	2033年度	2034年度	2035年度	2036年度	2037年度	2038年度	2039年度
	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度	令和16年度	令和17年度	令和18年度	令和19年度	令和20年度	令和21年度
	開院1年目	開院2年目	開院3年目	開院4年目	開院5年目	開院6年目	開院7年目	開院8年目	開院9年目	開院10年目
医業収益	3,360	3,469	3,475	3,469	3,469	3,469	3,475	3,469	3,469	3,469
医業外収益	778	736	772	759	755	684	608	607	559	606
特別利益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医業費用	4,340	4,238	4,254	4,228	4,220	4,080	3,930	3,928	3,832	3,926
医業外費用	389	391	388	385	379	343	348	341	335	329
特別損失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医業損益	-981	-769	-779	-759	-751	-611	-455	-459	-363	-457
経常利益	-592	-424	-396	-385	-375	-271	-196	-193	-138	-179
当年度純利益	-592	-424	-396	-385	-375	-271	-196	-193	-138	-179

■ 資本的収支	2030年度	2031年度	2032年度	2033年度	2034年度	2035年度	2036年度	2037年度	2038年度	2039年度
	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度	令和16年度	令和17年度	令和18年度	令和19年度	令和20年度	令和21年度
	開院1年目	開院2年目	開院3年目	開院4年目	開院5年目	開院6年目	開院7年目	開院8年目	開院9年目	開院10年目
資本的収入	1,948	142	1,066	380	478	566	344	344	256	956
資本的支出	2,130	273	1,402	740	936	1,111	668	668	492	1,191
資本的収支	-182	-132	-336	-360	-458	-546	-324	-324	-236	-236

■ 簡易キャッシュフロー	区分1	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度	令和16年度	令和17年度	令和18年度	令和19年度	令和20年度	令和21年度
	償却前利益 ※1		-108	18	82	80	87	91	103	105	112
返済資金 ※2		74	150	417	440	545	637	427	429	348	354
企業債償還金(元金返済)		363	263	672	720	916	1,091	648	648	472	471
キャッシュフロー(単年度)		-290	-114	-254	-280	-372	-455	-221	-219	-124	-117
キャッシュフロー(年次)		1,961	1,847	1,593	1,313	941	487	266	47	-77	-195

※1 償却前利益：経常利益－長期前受金戻入＋(減価償却費＋資産減耗費＋長期前受金消費税償却)

※2 返済資金：償却前利益＋一般会計出資金(資本的収支)

■ 主な経営指標	区分1	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度	令和16年度	令和17年度	令和18年度	令和19年度	令和20年度	令和21年度
	医業収支比率		77.4%	81.9%	81.7%	82.0%	82.2%	85.0%	88.4%	88.3%	90.5%
修正医業収支比率		72.3%	76.7%	76.5%	76.8%	77.0%	79.6%	82.8%	82.7%	84.8%	82.8%
経常収支比率		87.5%	90.8%	91.5%	91.7%	91.8%	93.9%	95.4%	95.5%	96.7%	95.8%